

注意点1

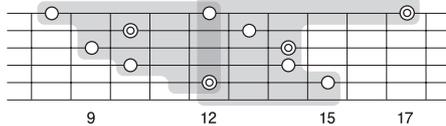


2種類ある5弦ルートのトライアド・ポジション

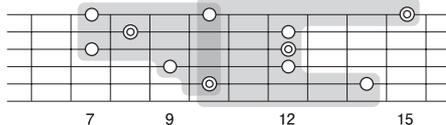
スウィープは、1つのポジションだけで上昇&下降を行なうと非常にマンネリ化する。それを打破するためには、2つのポジションを用いると良い。ここでは5弦がルート音のトライアド・ポジションを2種類紹介しよう。その2種類のポジションとは、ルート音を人差指で押さえるパターンと小指で押さえるパターン(図1)だ。実際のフレーズの中での効果的な使い方としては、どちらから弾き始め、上昇と下降で交互に弾き分けると良いだろう。ルート音が人差指のパターンは、途中必ずセーハするジョイント部分が登場するので難易度が高い。頭でスウィープの形を理解するのは当然だが、指に形を染み込ませるまで練習することが大切だ。

図1 5弦ルートのトライアド・ポジション

Aマイナー・トライアド ◎ルート音=A



Gメジャー・トライアド ◎ルート音=G



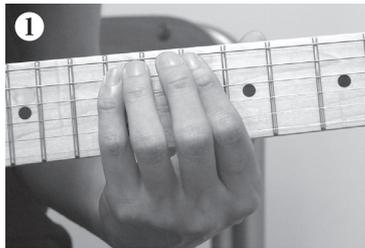
双方とも左のボックスが5弦のルート音を小指で押さえるパターンで、右のボックスが5弦のルート音を人差指で押さえるパターンとなっている。

注意点2



2つのポジションのチェンジは俊敏に行なおう!

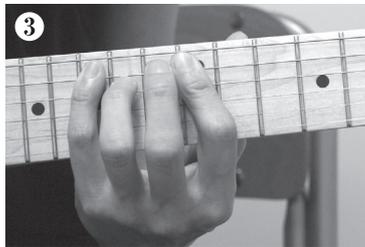
このスウィープ・フレーズは、5弦ルート音を小指で押さえるパターンで下降し、次に5弦ルート音の人差指で押さえるパターンで上昇する構成となっている。1小節ごとにコードが変わるので、各小節ごとのポジションを確認しておくこと。実際に弾く際には、2つのポジションがチェンジする部分に注意してほしい。写真は1小節目2拍目だが、ルート音を小指で押さえるパターンで5弦まで下降したら、すぐに次のルート音の人差指で押さえるパターンにシフトすること。ルート音を小指で押さえるパターンでは、5弦を小指で押弦している時点で人差指は余弦のミュートをするため、小指と一緒に5弦上にいるはずだが、ここでは通常よりも人差指を小指に近づけておくとうまいだろう(写真①)。



5弦 12f を小指で押弦。人差指を小指に近づけよう。



5弦 12f を人差指にシフト。次の小指も準備しておく。



5弦 15f を小指で押弦。人差指で6弦をミュートしよう。

～コラム 38～

地獄の戯れ言

自分ではしっかりと弾けていると思っていても、他人が聴くと全然ダメだというケースは多々ある。それを避けるためには、自分のプレイを客観的に聴いて、悪いところや癖を知る習慣をつけることが大切だ。現在では、低価格でHDR(ハードディスク・レコーダー)を購入することができるので、持っていない人は手に入れることをオススメしたい。そうすることで、すぐに自分のプレイを録音し、チェックすることができるだろう。さらに、自分のオリジナル・ソングを完璧に作り上げようと考えているクリエイター志向の強いギタリストには一歩進んで、PCによるレコーディング環境を揃えることをオススメだ。PCによるレコーディング環

PCレコーディングでギター人生は大きく変わる!?

境を構築すれば、リズムなどのバックトラックの打ち込みから、録音、TD & マスタリング、CD作成まで、レコーディングに関することすべてが1台でできるようになる。しかもPCの大きな画面でそれらの操作ができるので、作業効率も高い。確かにPCでのレコーディングは難しそうなイメージがある。しかし慣れてしまえば、これ以上楽なクリエイティブ環境はない。Fコードが押さえられるようになってギターの世界が一気に広がったように、PCによるレコーディング環境を構築することで、キミのギタリストとしての世界はさらに開くはずだ。少しでも興味がある人は、今すぐトライしてほしい。



Pro Tools Mbox. コンパクトかつローコストなモデルで、AmpliTubeなどの実用性の高いプラグインも付属している。